

第10回 原子力災害対策本部会議 議事概要

1. 日時

平成23年3月17日（木）18：13～18：25

※開始時間は、原子力災害対策本部の議事に入った時間。

2. 場所

官邸4階大会議室

3. 構成員等

本部長：菅直人内閣総理大臣

副本部長：海江田万里経済産業大臣

本部長：片山善博総務大臣・内閣府特命担当大臣（地域主権推進）・地域活性化担当、松本剛明外務大臣、野田佳彦財務大臣、高木義明文部科学大臣、細川律夫厚生労働大臣、鹿野道彦農林水産大臣、大島章宏国土交通大臣・海洋政策担当、松本龍環境大臣・内閣府特命担当大臣（防災）、北澤俊美防衛大臣、枝野幸男内閣官房長官・内閣府特命担当大臣（沖縄及び北方対策）、中野寛成国家公安委員会委員長・公務員制度改革担当・拉致問題担当、伊藤哲朗内閣危機管理監

その他：江田五月法務大臣、自見庄三郎郵政改革担当・内閣府特命担当大臣（金融）、蓮舫内閣府特命担当大臣（行政刷新、消費者及び食品安全）・節電啓発等担当、玄葉光一郎国家戦略担当・内閣府特命担当大臣（「新しい公共」、科学技術政策）・宇宙開発担当、与謝野馨閣府特命担当大臣（経済財政政策、少子化対策、男女共同参画）・社会保障・税一体改革担当 等

※緊急災害対策本部（全国務大臣で構成）と連続開催のため、本部長以外の閣僚も原子力災害対策本部に出席。

※本部長ではないが、本部会合には原子力安全委員会委員長が出席する。

4. 配布資料

- ・福島原発に係る海外での風評被害について（国土交通省）
- ・原子力災害対策本部会議資料 平成23年3月17日（経済産業省）

- ・福島第一・第二原子力発電所事故について（第57報）（原子力災害対策本部）
- ・福島第1原発3号機に対する放水等
- ・防災上の留意事項（気象庁）

※上記資料については、緊急災害対策本部と同時開催のため、一部資料が重複している可能性あり。

5. 議事概要

○枝野幸男内閣官房長官から、第12回緊急災害対策本部及び第10回原子力災害対策本部の開会を宣言。

○菅直人内閣総理大臣より下記のとおり挨拶。

- ・地震発生から7日を経た訳だが、新たな課題が次々とのしかかっている。そこで、この震災対策を万全に期すために、政府の体制を強化する、いくつかの強化策を進めたいと

思う。

- ・ 第一に、この本部の副本部長は、現在、官房長官と松本防災大臣であるが、その二人に加えて防衛大臣と自治体との関係ということを含めて、総務大臣に副本部長として加わってもらう。
- ・ 第二に、被災者の生活支援を強化するため、この本部の下に、被災者生活支援対策本部を置くこととする。これによって、原発の問題とこの問題の大きく二つの問題の中で、被災者支援について、半ば専念できる体制を作ってゆきたい。もちろん、いくつかの省庁、あるいは担当者はどうしてもダブるが、大きな流れをしっかりと作って参りたいと思う。
- ・ また、福島原発については、今日午前、3号機に自衛隊のヘリコプターによって、注水をした。危険な中での作戦実行ということで、実行された隊員を始め自衛隊の皆様には、心から感謝申し上げる。続いて現在、地上からの注水を、まずは機動隊つまり警視庁を中心をお願いを致しているところであるが、順調にいけば間もなくスタートすると聞いている。
- ・ オバマ大統領とも電話会談を行った。あらゆる支援をおしまないというお話しをいただいた。同時に、アメリカの市民の安全性についても、アメリカとしての対応のご説明があった。
- ・ 経産大臣から、大規模停電の発生の恐れがあることから節電の要請もされている。この震災で、まだまだ新たな課題をより大きくしている、そういうところもあるので、死力を尽くして、この状況乗り越えてゆきたい。幸い国民の皆様は冷静に対応されているので、その国民の皆様の期待に応えて、決意を新たにこの機会の挨拶とさせていただきます。

(菅直人内閣総理大臣の挨拶に続き、第12回緊急災害対策本部の議事が行われた。記載略。)

○枝野幸男内閣官房長官から、第12回緊急災害対策本部に続いて、第10回原子力災害対策本部の議事に入る旨案内。

○海江田万里経済産業大臣から福島第一原子力発電所の概況について下記のとおり報告。

- ・ 福島第一原子力発電所では、依然として厳しい状況が続いている。
- ・ これまで、水素爆発等で建屋に影響が生じたりしているものの、引き続き、炉心及び使用済み燃料プールの冷却に努めてまいりたい。
- ・ 1号機から3号機の炉心については引き続き海水の注水による冷却を継続している。
- ・ 使用済み燃料プールについては、自衛隊ヘリから確認したところ、4号機のプールにはある程度水が残っていると見られることから、3号機の使用済み燃料プールへの注水を優先して行うこととしている。
- ・ 本日午前、自衛隊ヘリコプターによる上空からの散水を実施。さらに、機動隊の高圧注水車が現地に到着しており、まもなく地上からの放水を実施する予定。
- ・ 平行して、外部電源の復旧に向けた作業を実施しているところ。
- ・ 現在、周辺の放射線量の変動は少なく落ち着いているところであるが、引き続き、注意深く監視を続けていきたい。

○高木義明文部科学大臣からモニタリングについて発言。

○中野寛成国家公安委員長から注水活動について発言。

○大島章宏国土交通大臣から「外国人は一斉に日本から退出している。」との発言。

○北澤俊美防衛大臣から「11ある放水車のうち強力な5輦で注水。17:37に現地着。」

との発言。

○細川律夫厚生労働大臣から下記のとおり発言。

・放射能の影響を受けた食品への対応については、農林水産大臣との協議の結果を受け、原子力安全委員会が設定した指標を暫定基準とし、食品衛生法に基づいて必要な措置をとるよう通知を发出。

・福島県の住民が多数、他県へ移動している。聞くところによれば、この大量移動の受け入れに関して、一昨日福島県知事から麻生知事会長に協力依頼があり、昨日官房副長官から麻生知事会長に連絡があったそうであり、これを受けて、本日、知事会事務局から当省事務局に、「国として、避難者に万全の対応をしていただきたい」との連絡があったとのこと。避難所経費などできることは最大限取り組むこととしているが、福島県からの住民の大量移動は、厚生労働省の範疇を遥かに超えるものであり、政府全体として取り組むべき課題。

○鹿野道彦農林水産大臣から「食品衛生法上の規制が行われた。農水省では、全面的に協力していく。」との発言。

○野田佳彦財務大臣から「G7会合で説明。」との発言。

○自見庄三郎金融担当大臣から、現金輸送車への燃料供給について発言。

○北澤俊美防衛大臣から、遺体の収容の仕方の指示について発言。

○松本龍防災担当大臣から「これをしなければ、という問題点のシミュレーションを。」との発言。

○中野寛成国家公安委員長から振り込め詐欺について発言。

○枝野幸男内閣官房長官から「各省の若手に市町村に行ってもらいたい。」との発言。

○玄葉国家戦略担当大臣から「これは戦争だ。勝つか負けるかだ。既に局地戦では負けているが、これから先、いかに負けを少なくするかだ。3つの『スリーマイル事故』が重なって起きているようなもの。最悪の事態を想定して住民を避難させるべきである。自分は専門家を交えてそのための住民避難の案を作っている。」との発言。

○枝野幸男内閣官房長官から閉会を宣言。

以上

※本議事概要は各種資料等を元に、2012年3月1日に整備。